

# 九州大学 大型計算機センターニュース

No. 220

1980. 11. 22

福岡市東区箱崎 6 丁目10番 1 号  
九州大学大型計算機センター  
広報教育室(TEL092-641-1101)  
内線 2505

## 目 次

◇ 大容量記憶装置 (MSS) のテスト運用開始について .....	1
◇ 共用ボリューム利用の制限強化について .....	2
◇ コマンドのレベルアップについて .....	2
◇ 罫線なしラインプリンタ用紙の使用について .....	2
◇ 渡辺測器製 X Y プロッタ装置 (WX625) の使用について .....	2
◇ センター内設置端末の使用について .....	2
◇ 日本語情報システム JEF の利用について .....	3

### ◇ 大容量記憶装置 (MSS) のテスト運用開始について

12月1日(月)よりMSS(Mass Storage System)の暫定運用を開始します。

MSSは、磁気テープ(大量データの低コスト)と直接アクセス記憶装置(オンラインアクセス)の利点の両方を兼備えたシステムであり、ソフトウェア上では、あたかも直接アクセス記憶装置であるかのように利用することができます。しかし、記録媒体は磁気テープのような順次アクセス媒体(カートリッジ)ですので、直接アクセス記憶装置のような速い応答性を要求することはできません。

MSSは、カートリッジ2個(容量100メガバイト)で1ボリュームを構成します。利用者は、ボリューム単位でMSSの利用申請を行い、センターより交付されたボリュームをその利用者の管理の下に使用します。申請の方法は、所定の「マスマストレージテスト利用申込書」に記入の上、2階受付に提出してください。後日、審査の上、具体的な利用説明書を添えてボリュームの交付を通知いたします。

なお、今回の申込受付は、約50名(1名あたり1ボリューム)を予定しています。

(業務掛 電(内) 2518)

◇ 共用ボリューム利用の制限強化について

MSSの暫定運用開始に伴い、保存データセットを確保するためのスペース割当単位は、1次量および2次量の指定に際して、100トラック以下の値を指定しなければなりません。この値を超えて指定しても、強制的に修正されて確保されます。

(業務掛 電(内) 2518)

◇ コマンドのレベルアップについて

11月5日より、EDITコマンドのDISPLAYサブコマンドをレベルアップしています。このレベルアップによって、現在編集中的数据セット名およびメンバー名が追加表示されるようになりました。

(ライブラリ室 電(内) 2509)

◇ 罫線なしラインプリンタ用紙の使用について

センターでサービスしている英小文字出力について、英小文字の印字が不鮮明との苦情がありましたので、英小文字出力を行うラインプリンタ装置のリボン交換を早目に行う事と併せて罫線なしのラインプリンタ用紙を使用するようにしました。通常のPL/I60文字セットを使用した出力も罫線なしの用紙に出力されることがありますのでご了承願います。

(業務掛 電(内) 2518)

◇ 渡辺測器製XYプロッタ装置(WX625)の使用について

濃い線の作図のために渡辺測器製XYプロッタ装置はインクペンを使用していますが、重ね書きをすると用紙が破損するなどの事故が起っていました。このたび、日本語ラインプリンタ装置により濃い線による作図が可能になりましたので、WX625プロッタのペンを12月1日よりボールペンに変更します。

(業務掛 電(内) 2518)

◇ センター内設置端末の使用について

最近、センター内に設置している端末の利用度が高くなり、特にFACOM6251K2ディスクレイ装置(FSO機能が使える端末)は利用者の待ち行列ができています。これらの端末を公平に使っていただくために下記のように一部予約制を実施することにしました。予約制の端末を予約端末とよぶことにします。

予約端末台数 5台

使用時間 1人当たり1時間

予約方法 受付窓口に設置のターミナル使用申込書に使用時間と名前を記入する。  
予約受付は使用時間の1時間前から可能。

なお、予約端末は途中で席を離れてもかまいませんが、予約なしで使用できる端末は席を離れる

と使用放棄とみなされます。また、連続して使用できる時間は予約端末同様1時間までです。

(業務掛 電(内) 2518)

◇ 日本語情報システム JEF の利用について

日本語情報システム JEF については、すでに10月14日の講習会以来、利用者に公開していますが、その後の経過も含め、改めてここでお知らせします。なお、詳細は、広報に掲載される解説記事 [ 1 ] あるいは下記マニュアルを参照してください。

1) FACOM OS IV JEF 解説書	64SG-9000
2) FACOM OS IV FDMS (和文エディタ) / JEF 解説書	64AR-8211
3) FACOM OS IV KING (文章処理) / JEF 解説書	70AR-8202
4) FACOM OS IV KING (グラフ・図形出力) / JEF 解説書	70AR-8203
5) FACOM OS IV PL/I 文法書 V05 用	64SP-3064
6) FACOM OS IV / F4 PL/I 使用手引書 V05 用	64SP-3074
7) FACOM OS IV / F4 COBOL プリプロセッサ手引書 V02 用	64SP-3650

1. JEF のハードウェア

1.1 日本語ラインプリンタ装置 (NLP)

NLP は、ノンインパクト型のレーザプリンタで、日本語文章あるいは図形の出力のために用いられます。NLP 出力に際しては、出力クラスとして O を指定します。NLP で出力される文字セットは、JIS 非漢字、JIS 第 1 水準漢字です。

1.2 日本語ディスプレイ装置 (NDP)

NDP は、日本語文章の入力・表示のための端末装置で、本センター 2 階に設置されています。現在、台数が少ないため予約制 (使用制限時間は 2 時間) となっています。NDP では、NLP 出力文字セットに加えて JIS 第 2 水準漢字も表示されるため、NDP では表示されるが NLP には出力されない場合も起こります。これを避けるためには、以下の 2.2 の使用例に述べるように、ダイナミックローディング [ 1 ] の指定をしてください。

2. JEF のソフトウェア

2.1 FDMS (和文エディタ)

NDP を TSS 端末として、カナ漢字変換方式で日本語文章の入力・編集をサポートするものです。詳細は、マニュアル 2 ) を参照してください。

2.2 KING (文章処理)

FDMS (和文エディタ) により作成した日本語文章を、体裁を整えた文書の形で NLP に出力する (テキストフォーマット機能) ものです。また、日本語文章中に組み込むための図版を抽出する図版データ編集機能も備えています。詳細は、マニュアル 3 ) を参照してください。

使用例

1) テキストフォーマット

- ・ 図版出力がない場合 (テキストのフォーマットのみ)

```
//A999901 JOB F9999, パスワード, MSGCLASS=O .....①
//          EXEC TEXTFMT
//OLDTEXT DD DSN=F9999. KANJI(EX), DISP=SHR .....②
//SYSIN   DD *
```

<pre>/ PARA LPI=6 @PG=52,66,1,0,9@ @AR=0,0@</pre>	<p>← PARA 文</p> <p>← ページ形式 .....③</p> <p>← 領域定義</p>
---	---

//

- ① システムメッセージのNLPへの出力を指示する。以下の使用例では、このJOB文を省略する。
- ② フォーマットすべき保存テキストの入っているデータセットを指定する。
- ③ フォーマットの形式指示のための制御文。詳細はマニュアル3)を参照のこと。

- ・ テキストフォーマットで、ダイナミックローディング指定の場合

```
//          EXEC TEXTFMT
//NLPLIST1 DD SYSOUT=O, DCB=OPTCD=U .....①
//OLDTEXT DD DSN=F9999. KANJI(EX1), DISP=SHR
//SYSIN   DD *
```

<p>PARA 文</p> <p>ページ形式</p> <p>領域定義</p>
--

//

- ① このDD文はもともとカタログドプロシジャTEXTFMT中に定義してあるが、ここではダイナミックローディング指定(OPTCD=U)のため、DD文の置き換えを行っている。詳細はマニュアル1)を参照のこと。

- ・ テキストフォーマットで、複写機能を使う場合

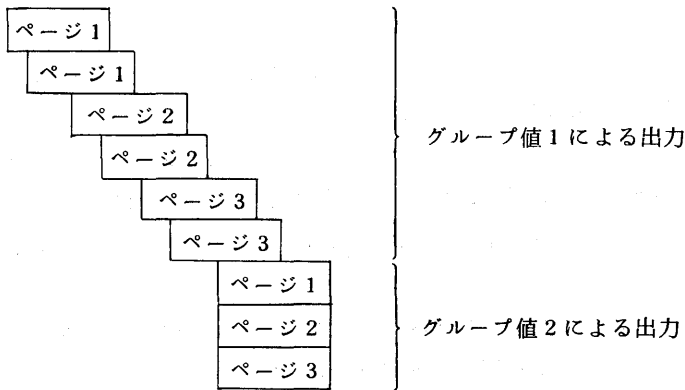
```
//          EXEC TEXTFMT          複写回数 グループ値1
//NLPLIST1 DD SYSOUT=O, COPIES=(2, (2, 1)) → グループ値2 .....①
//OLDTEXT DD DSN=F9999. KANJI(EX2), DISP=SHR
//SYSIN   DD *
```

PARA文
ページ形式
領域定義

//

① これも複写機能指定 (COPIES) のため、DD文の置き換えを行っている。複写回数を指定すれば、データセット単位の複写となり、グループ値を指定すればページ単位の複写となる。グループ値を指定した時、複写回数は無視される。詳細はマニュアル1)を参照のこと。

上の例のように指定すると、3ページからなるテキストは、下図のように出力される。



・ 図版出力がある場合

```
// EXEC TEXTFMT, WTR=KNGWTR
//OLDTEXT DD DSN=F9999. KANJI (EX3), DISP=SHR
//ZUHAN DD DSN=F9999. ZUHAN, DISP=SHR .....①
//SYSIN DD *
```

PARA文
ページ形式
領域定義

//

① 図版データ編集機能で抽出した図版の入っている、図版データセットを指定する。

ii) 図版データ編集

```
//          EXEC    ZHNEDT
//ZHNIMG   DD    DSN=F9999. ZHNIMG, DISP=SHR      .....①
//ZUHAN    DD    DSN=F9999. ZUHAN, DISP=(, CATLG), .....②
//
//          UNIT=PUB, SPACE=(TRK, (10,10,5))
//SYSIN    DD    *
```

/ SEL N=図版名	← SEL文	.....③
-------------	--------	--------

//

- ① 抽出すべき図版の入っている、図版NLP出力イメージのデータセットを指定する。
- ② 抽出した図版を格納しておく図版データセットを指定する。
- ③ 図版抽出のための制御文。詳細はマニュアル3)を参照のこと。

2.3 KING(グラフ・図形出力)のPSPCNV

プロッタサブルーチンライブラリPSPを使用して作成した図形をNLPに出力するものです。出力に際して、図形の拡大、縮小、回転などを行えるほか、線の種類を変えたり、日本語などの見出しを付けたりする機能を備えています。詳細は、マニュアル4)を参照してください。

使用例

・PSPを用いたFORTRANのソースプログラムから図形を出力する場合

```
//          EXEC    FORTXCG, SYSOUT=O
//FORT. SYSIN  DD    DSN=F9999. SOURCE.FORT, DISP=SHR
//GO. FT16F001 DD    DSN=&&PSP, DISP=(NEW, PASS),
//
//          UNIT=WORK, SPACE=(TRK, (10,10))
//          EXEC    PSPCNV
//XYSYS        DD    DSN=&&PSP, DISP=(OLD, DELETE)
//SYSIN        DD    *
```

* XY POS=(10,10),H.CODE=(, , YES), M=5	← XYカード
* ST POS=(40,20),A=(10,2),CA=▼TEST▼	← STカード .....①
* END	← ENDカード

//

- ① 図形出力制御のための図形制御カード。複雑な図形を出力する際は、XYカードのCODEオペランドにYESと指定しておいた方がよい。詳細は、マニュアル4)を参照のこと。

2.4 PL/I

PL/Iで日本語処理を可能とするために、コンパイラにオプションとしてJEF機能が追加

されています。なお、このためにPL/IをV05にバージョンアップしています。PL/Iの日本語処理のためのカタログドプロシジャは、従来のものがすべてそのまま使用できます。詳細は、マニュアル5)、6)を参照してください。

#### 使用例

```
//          EXEC PLIXCG, PARM=▼JEF, JCONST(N)▼,
//          SYSOUT=O                      .....①
//PLI. SYSIN      DD DSN=F9999. SOURCE. PLI, DISP=SHR
//GO. 出力ファイル名 DD SYSOUT=O        .....②
//
```

- ① 日本語データを含むプログラムの翻訳・結合・実行を行う。プログラム中に使用している定数を漢字コードに変換後、その一覧表を出力する。
- ② 実行結果をNLPに出力することを指示する。

#### 2.5 COBOL

COBOLの日本語処理は、COBOLプリプロセッサ(PRECOB)で行われます。なお、このためにCOBOLをV04にバージョンアップし、PRECOBを新規登録しています。COBOLの日本語処理のためのカタログドプロシジャは、入力プログラムの翻訳のみ行うCOBNと、翻訳・結合・実行を行うCOBNCLGが利用できます。詳細は、マニュアル7)を参照してください。

#### 使用例

```
//          EXEC COBNCLG, PARM=NOJLIST      .....①
//NCOB. SYSIN    DD DSN=F9999. SOURCE. COBOL, DISP=SHR
//GO. 出力ファイル名 DD SYSOUT=O        .....②
//
```

- ① 日本語データを含むプログラムの翻訳・結合・実行を行う。なお、その際定数の漢字コードへの変換一覧表は出力しない。
- ② 実行結果をNLPに出力することを指示する。

#### 参考文献

1. 武富, 高木, 川崎, 富山, 柳池, 原田, 関, 末永, 清水 日本語情報システムJEFの使用法, 九大大型計算機センター広報, 13, 4, 1980